

青森市アリーナプロジェクトについて

平成30年5月24日

第1回 青森市アリーナプロジェクト有識者会議 資料

青森市アリーナプロジェクトについて

- ①プロジェクトの概要及び有識者会議について
- ②カクヒログループスタジアム(青森市民体育館)の現状について
- ③青森操車場跡地の概要について

①プロジェクトの概要及び有識者会議について

【プロジェクトの概要】

昭和52年に整備された市民のスポーツ活動の場の中心であるカクヒログループスタジアム(青森市民体育館)は、現在老朽化が進み、建て替えが必要な時期に来ているが、敷地が狭く現在地への建て替えが困難な状況であるといった課題のほか、市中心部に広大な敷地を有する青森操車場跡地の利活用や、平均寿命が全国的にみて大幅に短いという課題がある。

本プロジェクトは、市民の健康づくりとスポーツ振興、さらには交流人口の拡大等による経済効果を図るため、スポーツのみならず多彩な催事ができる交流拠点を整備することとし、2025年に青森県で開催される国体を見据えた整備を目指すこととしている。

【有識者会議について】

有識者会議では、(仮称)青森市アリーナ等に必要な機能や周辺環境の整備等についてご意見をうかがうこととし、年間で5回程度の開催を予定。

月日	会議内容 ※予定
5月24日(木)	第1回会議(プロジェクトと会議、現在の市民体育館、操車場跡地の概要を説明)
7月中を目途	第2回会議(類似施設等の調査報告、競技団体等へのヒアリングを実施)

※上記のほか、年内に3回程度の会議開催を予定

②カクヒログループスタジアム（青森市民体育館）の現状について

【概要】

昭和52年に、青森県で開催された「あすなろ国体」において卓球の競技会場として使用され、開館から40年が経過。

開館日：昭和52年8月1日
 構造：鉄筋コンクリート造3階建
 敷地面積：10,083.66㎡
 建築面積：4,338㎡
 延床面積：6,311.72㎡
 主競技場：1,425㎡ 収容人員3,500人
 （固定席800席、移動椅子席2,500席、立見席200席）
 バスケットボール2面、バドミントン8面、バレーボール2面、
 卓球台24台 テニス2面
 第1体育室：バスケットボール1面 459㎡
 第2体育室：卓球台5台 198.4㎡
 第3体育室：卓球台7台 264㎡
 幼児体育室：遊具各種 105.6㎡
 トレーニング室：器具各種 134.4㎡
 研修室：会議・打合わせ等 100.8㎡
 管理運営：スポーツネット青森（指定管理者）



【主な利用】

バスケットボール（国体青森県予選会、青森市社会人リーグ等）
 卓球（国体青森県予選、青森県高校総体、青森市ジュニア卓球選手権等）
 バドミントン（青森県総合バドミントン選手権大会、青森市民バドミントン大会等）
 バレーボール（東北私立高等学校選手権、中体連夏季・秋季大会等）



主競技場



幼児体育室



第1体育室

【利用人数】

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29
利用者数(人)	178,018	161,179	166,283	159,433	162,870	115,364

③青森操車場跡地の概要

これまでの経緯

年月	内容
昭和59年2月	青森操車場跡地ヤード機能停止
平成9年11月	「青森操車場跡地利用構想」策定
平成10年3月	国鉄清算事業団から操車場跡地を取得(青森県・青森市・青森市土地開発公社)
平成15年4月	青い森セントラルパークとして暫定供用開始
平成22年4月	「青い森セントラルパーク低炭素型モデルタウン構想」策定
平成23年3月	青い森セントラルパーク低炭素型モデルタウン事業提案募集⇒(東日本大震災の発生)
5月	優先交渉権者及び次点交渉権者決定
9月	青森市議会において「青い森セントラルパーク全域を防災のため公有地として継続して管理することを求める請願」を採択
10月	青い森セントラルパーク低炭素型モデルタウン事業の中止
平成24年4月	<u>「青森操車場跡地利用計画素案」策定(・・・5ページ)</u>
9月	青森操車場跡地利用計画審議会を設置
平成25年3月	<u>「青森操車場跡地利用計画に関する答申書」(同審議会)(・・・6ページ)</u>
平成30年1月	子どもの食と健康応援プロジェクト及び青森市アリーナプロジェクトの公表
5月	青森市アリーナプロジェクト有識者会議の開催

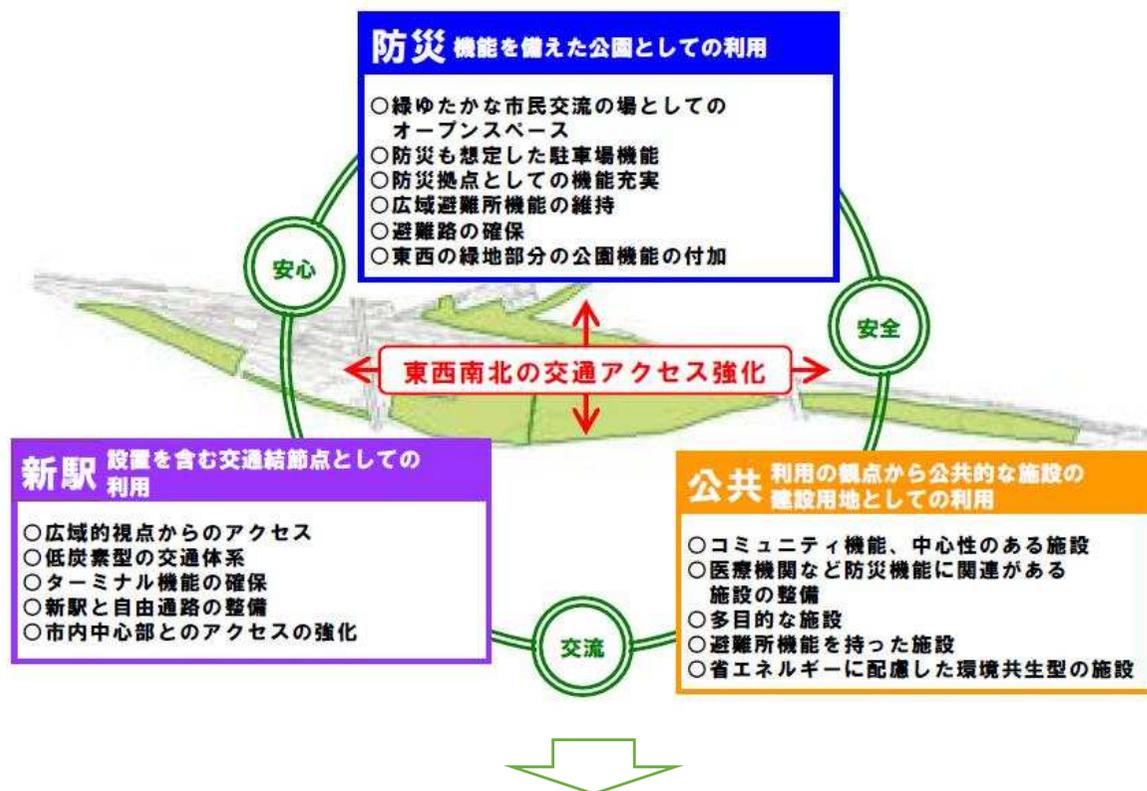
③ 青森操車場跡地の概要

「青森操車場跡地利用計画素案」（平成24年4月・青森市）より

青森操車場跡地土地利用イメージ



【青森操車場跡地における3つの土地利用の連関】



【土地利用のコンセプト】

「人とまち」を育む緑ゆたかな交流・防災拠点の創出
～未来へつなぐ安全・安心のオープンスペース～

【答申】土地利用の方向性

防災機能を備えた公園としての利用

青森操車場跡地全体で青森らしさを表現した緑のネットワークを形成し、後世にわたり維持できるような快適な空間を創造し、青森市中心部における緑ゆたかな拠点とする。

また、青い森セントラルパークは青森市の広域避難所に指定されていることから、その機能を維持しつつ、防災公園としての機能付加及び避難スペースの確保を図る。

新駅設置を含む交通結節点としての利用

青森操車場跡地地区は、その地域性を活かし、新駅の設置等の交通整備を進め、鉄道からバスへの乗り継ぎや徒歩・自転車利用といった複数の交通機関が連携した交通結節点を目指す。

また、新駅への東西南北のアクセス強化と公共施設との連携による利便性向上を図る。

公共利用の観点から公共的な施設の建設用地としての利用

青森操車場跡地地区では、公共的な利便性、中心性、交通結節点としての優位性を踏まえ、市民交流の場を提供する多様な市民活動が展開できる拠点形成を目指す。

③青森操車場跡地の概要

青森操車場跡地（約21.2ha）の現況

